

### 第III部 日本結核病学会資料

結核予防会結核研究所 島尾忠男

学会の活動状況を示す各種の資料を大正12年の学会創設以来ふり返つてまとめてみることに努めたが、資料の散逸しているものもあり完全なものを作ることは残念ながら不可能であつた。表1には会誌の発行状況、会員数、会費、会計の規模の推移を示してある。空白になっている部分は、資料の欠けている部分である。

会員数では当初1,000人弱から始まつた結核病学会が、昭和10年代になつて1,500人近くなり、第二次大戦後急増して最盛期の昭和34年には4,000人をこえたが、その後漸減して50年現在の会員数は2,331人となっている。

会誌「結核」は縦組み片仮名を用いていた。第1巻は6号を発行し、第3巻で9号、第4巻で月刊の12号となり、以後原則として12号発行が続いている。第10巻からは横組みとなり、第23巻からは平仮名を用いるようになった。

第二次大戦の影響は結核病学会も強く受けており、昭和19年に予定された第22回総会は22年4月まで延期され、会誌「結核」も第22巻4号を最後に発行が不可能になり、22年になつてやつと第22巻5号から復活した。この結果結核病学会総会の回数および「結核」の巻数が昭和の年号と一致することになった。

会費は年5円で出発し、大正15年から昭和21年までは6円に止まつていたが、22年以降は第二次大戦後のインフレーションの影響を受けて急上昇し、27年の1,000円でやつと安定した。40年代に入つての上昇は、高度成長に伴うインフレーションのためであり、最近2年間の急上昇は石油ショックの影響が直接に現れたものである。会費は50年間に1,000倍になつた。一方会計の規模も当初の1万円強が49年には1,819万円となり、約2,000倍の上昇である。

学会の事務局は創設以来東京市江古田の東京市療養所に置かれていたが、昭和22年に結核予防会に移されて今日に及んでいる。

学会活動の1つの現れが各種の委員会活動である。大正14年に話題の新薬サノクリジンを検討するための調査委員会が設けられた(528頁のサノクリジンの項参照)。共同研究を行つた結果本剤は特効薬でなく、一種の刺激薬であることが明らかにされたが、有効な薬のなかつた当時、新薬の出現はもしそれが誤報であつたとすれば被害を受ける人が多くでるおそれがあるが、サノクリジン調査委員会で早急に適確な結論を出すことができたこと

は立派な業績であり、本委員会は昭和2年に解散した。

昭和7年には奨学金規程が制定され、該当者選考のために奨学金委員会が設けられている。

結核管理という考え方が広まつてくる中で、皆が共通に使い、管理や統計に適した胸部X線所見の分類を作る必要性が生じ、昭和33年に病型分類委員会が設けられ、慎重な討議と実際のフィルムの読影成績をもとに、学会分類が制定されて34年に発表された。35年には1部修正が加えられ、今日まで広く用いられている(523頁の病型分類の項参照)。

昭和40年には抗酸菌分類委員会が発足し、数年にわたる研究と討議の結果成案を得て、同委員会は47年に廃止された。

昭和40年に始まつた大学紛争は、必然的に学会をもまきこみ、学会の体質改善が若い研究者らによつて強く要望された。こうした動きに対応するため42年に組織、運営、将来計画委員会が設けられ、まず学会役員を選出方法や任期について検討が加えられ、理事の任期は2年とし、重任は1回限りとする新しい方式が44年から実施され、役員の新陳代謝が可能になつた。その後同委員会は将来計画委員会となり、学会活動のあり方、胸部疾患学会との関係などについて検討が進められている。

同じ42年に専門医制度委員会が設けられたが、結核だけを専攻する専門医を作ることは難しく、意義も少ないことから、同委員会は46年に廃止された。43年には内科系学会が診療点数を検討し始めたことに対応して、社会保険委員会が設けられ、新しいより合理的な診療点数体系を作るための努力が続けられている。44年には結核予防会大阪府支部から、長く同支部長として、また結核病学会の中心的存在として活躍され、42年6月に逝去された今村荒男先生を記念して、若手研究者を育成するための賞金が寄贈されることになり、これをもとにして今村賞が設けられ、その選考に当たる今村賞選考委員会が作られた。46年には学会総会のプログラム編成に際して会長を助けるために、プログラム委員会を置くことが決定された。

47年には結核治療委員会が設立され、結核治療について最新の見解をまとめて発表してゆくことになり、まず48年に「リファンピシンの結核症治療への使用に関する見解」が、次いで49年には「結核化学療法に関する見解」が公表された。このような実績が示すように、昭和40年代は委員会活動が活発に行われた時代といえ

よう。

大正12年の第1回以降第50回までの学会総会の開催地、会長、開催期日などを表2に示してある。第1回は会期も1日、宿題報告などもなく、33題の発表があっただけであつたが、第2回からは会期も2日となり、特別講演も行われ、第4回からは会期も3日となり、第8回では一般演題数も100をこし、第20回では200をこえる発表が行われた。第二次大戦後半から戦後一時衰えていた学会総会も第24回には276題、第25回には363

題と最高の出題を数え、第30回では会期が4日となった。30年代に入つて第32回ではシンポジウム形式が多用され、学会が討議の場であることを再認識させて以来、シンポジウムが多く行われるようになった。一般演題数は40年代に入つて漸減し、最近では100を割っている。

各総会で行われた特別講演、宿題報告、シンポジウムなどの演題名と演者、シンポジウムでは座長名の一覧を表3に示してある。

## 事務局回顧

国立療養所中野病院 馬場 治賢

大正11年6月東京で開かれた全国7公立療養所長会議で結核病学会創立の企図が議決され、翌年1月創立総会において事務局を東京市療養所（後の国立療養所中野病院）におくことになった。字数の制約のため、ここではその仕事中最も重要と思われる機関紙「結核」の発行に限定して述べる。初めは所長田沢鏖二が編集に当り、村尾圭介、春木秀次郎がこれを補佐したが、昭和3年頃からはもつぱら春木がこれに当つた。「結核」第2巻（大正13年）の記事では「本会は予期以上の発展をなし会員数も増加、臨床家の入会も少なからず、したがつて一部会員の興味である学術的原著はなるべく簡潔にし、内外文献の抄録、社会医学、講義、臨床実験談等に力を注ぐ……」とある。原著は欧文（もつぱらドイツ語）の抄録をつけ、1編20頁以内、それ以上は自己負担で40頁を限度とする。また全額を負担すれば優先的早期発表の制度もあつた。しかし実際には60頁を越える大論文も少なくなかつた。そのため投稿後雑誌発表まで2年以上を要するようになった。第二次大戦が盛んになるにつけ紙も不足し、この傾向をますます助長した。初めには各号200頁もあつたものが30頁くらいとなり、昭和19年22巻の途中で一応発行できなくなつた。

戦後事務局は結核予防会に移り隈部英雄が編集人となり大改革を行つた。何より編集委員を広く会員中から選び複数にし合議の上編集方針を決めた。1論文の長さを4頁以内に制限し、横書きにしたこと、原著抄録を英文とし、文献抄録は雑誌から除いた等である。

表1. 会誌発行状況, 会員数, 会費, 会計規模一覧表

年 度	会 誌	学会 総会	会員数	会 費	会計の規模	摘 要	
大12	1923	1-6 (縦組み片カナ) 使用	1	945	5	10,137.79	1度に20円取めると5年分とした
13	24	2-6	2	1,230	"	9,345.18	
14	25	3-9	3	1,225	"	10,701.27	サノクリジン調査委員会設置
15	26	4-12	4		6	16,095.44	
昭2	27	5-12	5	1,325	"	16,795.43	サノクリジン調査委員会報告提出し解散
3	28	6-12	6	1,391	"	19,578.56	
4	29	7-12	7	1,471	"	16,068.94	
5	30	8-12	8	1,439	"	18,230.88	
6	31	9-12	9	1,369	"	19,677.13	
7	32	10-12 (横組みとなる) 片カナ	10	1,038	"	14,029.98	奨学金規程判定, 奨学金委員会(14名)設置, 3月24日コッホ結核菌発見50周年記念祝典実施
8	33	11-12	11	1,268	"	14,581.13	
9	34	12-12 (12-9に附録) 発行	12	1,389	"	15,114.15	
10	35	13-12	13	1,294	"	16,024.70	
11	36	14-12	14	1,381	"	16,390.84	
12	37	15-12	15	1,474	"	17,750.51	
13	38	16-12	16	1,299	"	18,336.26	
14	39	17-12	17	1,475	"	16,424.67	
15	40	18-12	18	1,478	"		
16	41	19-12	19		"	21,851.66	
17	42	20-12	20		"	23,369.05	
18	43	21-12	21		"		
19	44	22-1~4			"	19,806.47	第22回総会時局緊迫で延期, 会誌も第5号以降発行不能となる。
20	45				"	14,426.84	
21	46				"	37,912.40	
22	47	22-5~12	22		半年 42	34,058.15	
23	48	23-12 (横組み平カナ) となる	23	1,700	上半期 120 下半期 220	294,980.06	{ 学会事務所中野療養所から予防会に移る。出版を東西医学社へ委託 会費60円, 会誌と合わせ左記のとおり
24	49	24-12	24		600		
25	50	25-12	25		"	1,684,862.21	
26	51	26-12 (9・10・11月) 号合併	26		840		総会でスライド使用可能
27	52	27-10 (9・10・11月) 合併し9号	27		1,000		
28	53	28-11 (10・11月合併) し10号	28		"		
29	54	29-12 (総会演説特集) 号別となる	29		"		30年から海外版(英文)発行を決定
30	55	30-12	30		"	5,830,090	

年 度	会 誌	学会 総学	会員数	会 費	会計の規模	摘 要	
昭31	1956	31-12	31	3,191 <sup>人</sup>	1,000 <sup>円</sup>	6,515,617 <sup>円</sup>	4月から会誌の発行を学会で行うこととなる。4月に英文の海外版第1巻(会員300円, 会員外500円)発行
	32	57 32-12	32	3,308	"	7,335,830	総会にシンポジウム多用の新しい方式採用
	33	58 33-12	33	3,698	"	8,106,164	病型分類委員会設置
	34	59 34-12	34	4,036	"	7,777,362	学会病型分類発表
	35	60 35-12	35	3,942	"	7,520,914	学会分類一部改訂
	36	61 36-12 (総会演説7・8・9・10合併号へ)	36	3,787	"	5,722,049	結核管理研究全国会議第1回開催
	37	62 37-12	37	3,568	1,300	6,499,283	会報欄復活
	38	63 38-13 (38回総会プロを第3号で刊行)	38	3,387	"	6,935,883	
	39	64 39-10 (第3号プログラム)	39	3,213	1,500	7,504,362	
	40	65 40-12 (第4号プログラム)	40	3,081	"	7,837,633	抗酸菌分類委設置
	41	66 41-12 (第5号プログラム)	41	3,001	"	7,878,069	
	42	67 42-12 (第3号プログラム)	42	2,831	2,000		組織運営, 将来計画委, 専門委制度委設置
	43	68 43-12 (第3号プログラム)	43	2,687	"	9,432,023	理事重任1回限りなどの新会則を44年1月から実施と決定, 社会保険委設置
	44	69 44-12 (第5号プログラム)	44	2,582	"	10,505,661	今村賞を設けた
	45	70 45-12 (第5号プログラム)	45	2,500	"	10,748,963	
	46	71 46-12 (第2号プログラム)	46	2,479	"	12,042,030	プログラム委設置, 専門医制度委廃止
	47	72 47-12 (第3号プログラム)	47	2,386	3,000	15,528,120	結核治療委設置, 抗酸菌分類委廃止
	48	73 48-12 (第2号プログラム)	48	2,316	"	15,812,593	第22回国際結核会議を東京で開催
	49	74 49-12 (第2号プログラム)	49	2,259	4,000	18,187,558	結核化学療法に関する見解発表
	50	75 50-11 (第3号プログラム)	50	2,331	5,000		

表 2. 結核病学会総会の開催地, 会長, 開催期日

総会回数	開催地	会長名	開催期日	日数	宿題報告数	特別講演数	シンポジウム演題数	一般演題数	その他特記すべき事項
1	東京	北里柴三郎	大正12. 4. 3	1				33	東大法医学教室で開催 参会者 100人弱
2	大阪	佐多 愛彦	大正13. 4. 5~6	2		4		41	大阪医大病院大講堂で開催
3	福岡	武谷 廣	大正14. 4. 2~3	2	3			69	福岡県立高女講堂
4	東京	入澤 達吉	大正15. 4. 2~4	3	2	1		73	東大。本会の活動天聴に達し御下 賜金 500 円を下賜 第7回日本医学会の第8分科会と して開催, 同医学会の病理学会 で佐多博士は「結核の重感染に就 て」と題する宿題報告を行った
5	京都	藤浪 鑑	昭和 2. 4. 1~3	3	2	4		80	京大。藤浪鑑会長外遊中で三戸時 雄博士代理。特別講演はサノクリ ジン調査委員会の報告
6	東京	田澤 鏡二	昭和 3. 4. 1~3	3	2	6		62	2日間慶応大学, 3日目は実社会 と関係深い5題の特別講演を日本 生命保険会社協会で公開して実施
7	札幌	有馬 英二	昭和 4. 7. 6~7	2	2	2		79	(但し 20 題欠) 北大
8	大阪	今村 荒男	昭和 5. 4. 2~4	3	1	1		111	竹尾結研。第8回日本医学会の第 8分科会として実施
9	東京	宮川 米次	昭和 6. 4. 1~3	3	3	1		93	東大
10	名古屋	岡田清三郎	昭和 7. 4. 1~3	3	1	2		81	(欠12) 名古屋市公会堂
11	京都	三戸 時雄	昭和 8. 4. 1~3	3	2	4		88	
12	東京	佐藤 秀三	昭和 9. 4. 2~4	3	4	3		90	
13	大阪	楠本長三郎	昭和10. 4. 1~3	2.5	1	1		119	抄録委員会発足し分担決定
14	仙台	熊谷 岱藏	昭和11. 4. 5~6	2	2	4		83	
15	東京	西野忠次郎	昭和12. 4. 1~3	3	1	1		131	
16	京都	辻 寛治	昭和13. 4. 2~4	3	1	2		126	
17	金沢	大里 俊吾	昭和14. 4. 1~3	3	1	3		105	
18	東京	坂口 康藏	昭和15. 3. 31~4. 2	3	2	2		119	
19	福岡	戸田 忠雄	昭和16. 4. 1~3	3	2	2		173	
20	東京	遠藤 繁清	昭和17. 3. 27~29	3	3			202	
21	京都	浅山 忠愛	昭和18. 4. 5~7	3		3		233	
22	大阪	春木秀次郎	昭和22. 4. 5~6	2	4	1			第12回日本医学会の分科会として 実施。各大学, 研究所, 国立療養 所, 日本医療団等の代表演説のみ (21題)で, 一般演説なし, 外科学 会との協同講演あり
23	東京	勝俣 稔	昭和23. 4. 1~3	3		3		143	
24	京都	服部峻次郎	昭和24. 4. 1~3	3		3		276	第1回関東地方会 (24. 1. 22 東京 医大) 開催, 第1回近畿地方会開 催24. 11. 12, 第1回九州地方会開 催24. 12. 4
25	金沢	日置陸奥夫	昭和25. 5. 5~7	3		2	1	363	
26	東京	高野 六郎	昭和26. 4. 2~4	3		2	1	135	

総会 回数	開催地	会長名	開催期日	日数	宿題 報告数	特別 講演数	シンポ ジウム 演題数	一般 演題数	その他特記すべき事項
27	大阪	渡辺 三郎	昭和27. 4. 1~3	3		4	1	112	他に展示23
28	東京	岡 治道	昭和28. 4. 1~3	3		2	1	268	
29	名古屋	勝沼 精蔵	昭和29. 4. 1~3	3		2	1	279	
30	京都	日下部周利	昭和30. 4. 2~5	4		4		250	
31	仙台	海老名敏明	昭和31. 5. 2~4	3		3	1	280	他に特別発表1
32	東京	隈部 英雄	昭和32. 4. 3~5	3		1	2	282	一般演題から多くのシンポジウムを編成
33	大阪	堂野前維摩郷	昭和33. 5. 24~26	3		2	3	280	
34	東京	石田 二郎	昭和34. 4. 5~6	2			1	208	他に特別発表1
35	福岡	貝田 勝美	昭和35. 4. 7~9	3		5	3	243	他に特別報告2, ファイアサイド コンファランス6 (総題数40)
36	名古屋	日比野 進	昭和36. 4. 4~6	3		7	3	204	他に示説32題, 自由集会8
37	京都	青柳 安誠	昭和37. 4. 9~11	3		7	3	249	
38	大阪	堀 三津夫	昭和38. 4. 3~4	2		2	3	105	他にラウンドテーブル・コンファ ランス6 (総題数57)
39	東京	柳沢 謙	昭和39. 4. 5~7	3		3	4	143	他に特別報告1
40	仙台	中村 隆	昭和40. 5. 7~9	3		2	4	194	他に特別報告1
41	札幌	高橋 義夫	昭和41. 6. 7~8	2		2	2	208	自由集会 “これからの結核研究”
42	名古屋	岡田 博	昭和42. 4. 4~5	2		2	3	119	
43	東京	岩崎 龍郎	昭和43. 4. 9~11	3		1	4	88	特別報告1
44	京都	内藤 益一	昭和44. 6. 30~7. 1	2		2	4	131	特別報告1, サルコイドー ジスに関する講演会
45	仙台	岡 捨己	昭和45. 7. 11~12	2		2	4	135	自由集会 “サルコイドー ジスの診断に関する諸問題”
46	東京	北本 治	昭和46. 4. 3~4	2		2	2	83	
47	広島	占部 薫	昭和47. 4. 12~13	2		2	3	117	
48	福岡	武谷 健二	昭和48. 4. 2~3	2		2	3	106	
49	東京	砂原 茂一	昭和49. 3. 31~4. 1	2		2	2	95	今村賞受賞講演2
50	京都	安平 公夫	昭和50. 4. 3~4	2		2	3	94	今村賞受賞講演1

(特別講演には招請講演も含む。シンポジウムにはパネルディスカッションも含む)

表 3. 総会における宿題報告, 特別講演の題名と演者,  
シンポジウムの題名と座長, 演者の一覧表

総会回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等の別	題 名	座 長	演 者
1	ナ シ			
2	特別講演 (1)	小児結核に対する施設に就きて		佐藤秀三 (伝研)
	特別講演 (2)	結核の「レントゲン」放射治療		藤浪剛一
	特別講演 (3)	Untersuchungen einer klinischen Einteilung der Lungentuberkulose		Prof. Dr. Siegfried Gräff (新潟医大)
	特別講演 (4)	結核免疫観と肺癆発生観の近況		佐多愛彦 (大阪医大)
3	宿題報告	結核の初期感染と再感染 (臨床的方面)		有馬英二 (北大)
	宿題報告	結核の初期感染と再感染 (病理解剖学的方面)		緒方知三郎 (東大)
	宿題報告	結核の初期感染と再感染 (実験的方面)		佐多愛彦 (竹尾結研)
4	宿題報告	肺結核の一般療法 其1 肺結核の薬物的療法		有馬頼吉 (刀根山療)
	宿題報告	肺結核の一般療法 其2		田澤鏝二 (東京市療)
	特別講演	喉頭結核の療法に就て		岡田和一郎 (東大)
5	特別講演	「サノクリジン」の細菌学的及小動物における治療実験		渡辺義政 (北里研) 佐藤秀三 (伝研)
	特別講演	実験的膿結核の「サノクリジン」療法成績		岡 治道 (東京市療) 佐藤新一 (北里研) 白岩辰次郎
	特別講演	「サノクリジン」による人体結核治療成績		田澤鏝二 外医局員一同 (東京市療)
	特別講演	「サノクリジン」による人体結核治療成績		宮川米次 外医局員一同 (伝研附属病)
	宿題報告	結核「ワクチン」の予防的効力批判		今村荒男 (大阪医大)
	宿題報告	結核「ワクチン」の予防的効果 (実験的研究)		佐藤秀三 (伝研)
6	宿題報告	胸膜炎の統計的並に臨床的観察		出井淳三 (陸軍軍医学校)
	宿題報告	帝国海軍に於ける胸膜炎の研究		上田春治郎 (海軍軍医学校)
	特別講演	小児結核		鈴木 正 (京大)
	特別講演	肺結核の治療及予防に対する循環器の関係		田澤鏝二 (東京市療)
	特別講演	東京府市における結核の分布		加藤寛二郎 (警視庁)
	特別講演	日本農村に於ける結核の蔓延		佐藤 正 (内務省)
	特別講演	生命保険と結核		矢野恒太 (第一生命)
	特別講演	欧米視察談		佐多愛彦 (竹尾結研)
7	宿題報告	腎臓結核の早期診断		志賀 亮 (北大)
	宿題報告	肺結核の発生機序に就て		熊谷岱藏 (東北大)
	特別講演	繊維工業と肺結核		桜田儀七 (工場監督官)
	特別講演	炭肺と肺結核 (炭鉱の肺結核)		白川致治 (夕張炭鉱病)

会員以外の一般にも開放した教育的講演

総会 回数	特別講演、宿題、 シンポジウム等 の別	題 名	座 長	演 者
8	宿 題 報 告	肺結核の人工気胸療法		有馬英二 (北大)
	特 別 講 演	光が物質に対する作用		木村正路 (京大理)
9	宿 題 報 告	病理解剖学より観たる結核症の診断		岡 治道 (東京市療)
	宿 題 報 告	結核「アレルギー」		今村荒男 (阪大)
	宿 題 報 告	「ツベルクリンアレルギー」と肋膜炎		小林義雄 (海軍軍医学校)
	特 別 講 演	外科的手術の肺結核に及ぼす影響		坂口康蔵 (東京警察病)
10	宿 題 報 告	肺結核		熊谷岱蔵 (東北大)
	特 別 講 演	皮膚結核の病理と臨床		松本信一 (京大)
	特 別 講 演	皮膚結核の療法特に其無含塩食餌療法に就て		佐藤邦雄 (千葉医大)
11	宿 題 報 告	自己ノ経験ヨリ見タル無塩食餌 (GSH 食餌) 療法 特ニ肺結核患者 ニ対シテ		宮川米次外医局員一同 (東大伝研 病院)
	宿 題 報 告	肺結核患者ニ対スル無塩食餌療法		春木秀次郎 (東京市療)
	特 別 講 演	肺結核患者ノ妊娠中絶 1. 内科的観察 2. 産科学的観察 3. 法律学的観察		大里俊吾 (金沢医大) 岡林秀一 (京大) 滝川幸辰 (京大)
	特 別 講 演	結核性疾患ト「ビタミン」		島園順次郎 (東大)
12	宿 題 報 告	細菌免疫学的方面ヨリ観タル肺結核 ノ予後判定ノ基準		今村荒男 (阪大・竹尾研)
	宿 題 報 告	血液並ニ血液諸反応ヨリ観タル肺 結核ノ予後判定基準		勝沼精蔵 (名古屋医大)
	宿 題 報 告	X線像ヨリ観タル肺結核ノ予後判定 ノ基準		有馬英二 (北大)
	宿 題 報 告	総合的考察		熊谷岱蔵 (東北大)
	特 別 講 演	「サナトリウム」建築ニ就テ		神岡三郎 (東京市技師)
	特 別 講 演	所謂変調療法ニ就テ		柿沼晃作 (岡山医大)
	特 別 講 演	各種放射線ノ生物学的意義		中泉正徳 (東大)
13	特 別 講 演	肺結核患者ノ胃腸障碍		岡田清三郎 (名古屋医大)
	宿 題 報 告	肺結核ノ活動性診断		太繩寿郎 (刀根山病)
14	特 別 講 演	肺結核ノ新陳代謝		桂 重鴻 (東北大)
	特 別 講 演	「ビリルビン」ト結核		今村荒男 (阪大)
	特 別 講 演	動態「レントゲン」写真		矢部 升 (東京市療)
	特 別 講 演	結核ノ特殊薬物		有馬英二 (北大)
	宿 題	細菌学的領域ヨリナセル結核ノ研究 並ニ抗酸菌ノ分類		戸田忠雄 (九大)
	宿 題	病理解剖学ヨリ見タル結核問題		木村男也 (東北大)
15	特 別 講 演	眼結核ニ就テ		菅沼定男 (慶大)
	宿 題	結核ノ高山療法		正木俊二 (富士見高原療)

総回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等の別	題名	座長	演者
16	特別講演	結核ノ刺戟療法		大谷彬亮(北研)
	特別講演	滲出性肋膜炎ノ治療		飯塚直彦(京都府医大), 加藤豊治郎(東北大), 小田俊郎(台北大), 角尾晋(長崎医大), 小沢修造(阪大), 上田春治郎(海軍軍医少将)
	宿題	喉頭結核		後藤光治(京大)
17	特別講演	小児結核ノ臨床		服部峻治郎(京大)
	特別講演	結核初感染ニ就テ		熊谷岱藏(東北大)
	特別講演	結核ノ化学療法ニ関スル実験研究ニ就テ		長谷川秀治(伝研)
	宿題	結核症ト体質		中村八太郎(金沢医大)
18	宿題	肺結核ト外科		都築正男(東大)
	宿題	結核ニ関スル集団検診		今村荒男(阪大)
	特別講演	満洲ノ結核問題		遠藤繁清(南満保養院)
	特別講演	定期健康診査ニ関スル諸問題		田澤鏝二(東京市療)
19	宿題	肺結核ノ早期発見と予後		貝田勝美(九大)
	特別講演	結核病竈ノ治療ニ就テ		岡 治道(東京市療)
	特別講演	結核と保険		佐藤 正(保険院)
	宿題	「ツベルクリン」及び結核「アレルギー」ノ検討		戸田忠雄(九大)
20	宿題	淋巴腺結核ノ病理		小野興作(九大)
	宿題	結核空洞ノ吸引療法		海老名敏明(東北大)
	宿題	「サナトリウム」療法ノ推移ト所要施設ノ研究		田澤鏝二(東京市療)
21	特別講演	肺結核ノ滲出性炎症ニ就テ		竹内 清(長崎医大)
	特別講演	肺結核ノ病期と病型トノ関連性		内藤益一(京大結研)
	特別講演	結核性疾患殊ニ肺結核ノ病態生理		細田 孟(京都府立医大)
22	宿題	肺結核ノ外科的療法		
	外科学会との協同講演(現在のシンポジウムに相当)	(1) 肺結核ノ外科的療法ノ適応症ニ就テ (2) 肺結核ノ外科的療法ノ適応ニ就テ (3) 肺結核症ノ外科的治療法ト其ノ効果 (4) 肺結核ノ外科的療法, 特ニ其ノ治療成績ニ就テ		海老名敏明, 鈴木千賀志(東北大抗研) 武田義章(阪大小沢外科) 加納保之(国療村松晴嵐荘) 卜部美代志(東大)
	特別講演	米国に於ける結核予防		A. P. ナイト(GHQ)
23	特別講演	結核予防ノ科学的分析		隈部英雄(予防会結研)
	特別講演	合衆国に於ける最近ノ結核化学療法ニ就テ		A. P. ナイト(GHQ)
	特別講演	栄養と結核		岩鶴龍三(和歌山大)
24	特別講演	結核菌ノ形態及び発育様式ノ闡明		植田三郎(京大結研)
	特別講演	肋膜外肺剝離縫縮術		河合直次(千葉大)

総会 回数	特別講演、題宿、 シンポジウム等 の別	題 名	座 長	演 者
24	特別講演	肺結核の外科的療法、肋膜外充填術の再検討		長石忠三（京大結研）
25	特別講演	「オルトアミノフェノール」を中心として展開した結核に対する化学療法並免疫学的研究		岡本 肇（金沢大結研）
	特別講演	結核を中心とした化学療法並抗生物質療法研究		日置陸奥夫（金沢大）
	交見演説	「ストレプトマイシン」の臨床 SM 治療下結核性髄膜炎の臨床 肺結核に対するストレプトマイシンの肺内注射法 ストレプトマイシンの臨床		佐々貫之（東大） 堂野前維摩郷（阪大） 海老名敏明（東北大抗研）
26	特別講演	栄養学よりみたる結核症		中村 隆（東北大）
	特別講演	結核性膿胸患者の治療に関する研究		馬場治賢（国療中野）
	交見演説	肺 切 除 1. 肺結核に対する肺切除 2. 肺結核における肺切除療法 3. 肺結核にたいする肺切除術の適応とその治療成績について		卜部美代志、林 周一（東大） 鈴木千賀志（東北大抗研） 宮本 忍（国療東京）
27	特別講演	結核菌の物質代謝		山村雄一（国療刀根山）
	特別講演	結核発病条件の検討		岡田藤助（国療千葉）
	特別講演	免疫生物学的機転に関するネクレイネミー学説の発展		青山敬二（有馬研）
	特別講演	肺結核の混合感染		河盛勇造（阪大）
	シンポジウム	気管支結核 1. 結核性気管気管支炎と気管支樹の運動機能 2. 気管支結核 3. 結核性気管気管支炎の病理と臨床		小野 譲（慶大） 粟田口省吾（東北大抗研） 牧野 進（国療清瀬）
28	特別講演	BCG について		柳沢 謙（予研）
	特別講演	肺区域切除		塩沢正俊（予防会結研）
	シンポジウム	集団検診 I 都会の結核 II 農村の結核 III 工場の結核		鈴木邦夫（予防会上北沢診） 岡 捨己、河西助蔵、菅野 巖（東北大結研） 富田信雄（日本鋼管川鉄診）
29	特別講演	実態調査から見たわが国の結核の現状 結核菌の化学、殊に耐性菌に関連して		山口正義（厚生省公衆衛生局） 日比野進（名大）
	シンポジウム	虚脱療法 虚脱療法の遠隔成績		堂野前維摩郷（阪大）

総会 回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等 の別	題 名	座 長	演 者
29	シンポジウム	虚脱療法の遠隔成績 虚脱療法の遠隔成績		砂原茂一(国療東京) 菅野 巖(東北大抗研)
30	特別講演	肺結核症の化学療法に関する臨床的 並に病理形態学的研究		岩崎龍郎(予防会結研)
	特別講演	ツベルクリン活性因子とその応用に 関する研究		戸田忠雄(九大細菌)
	特別講演	空洞切開術を中心とする肺結核の切 開排膿療法		長石忠三(京大)
	特別講演	実態調査から見た結核の動態 (昭和29年度調査による年間推移)		山口正義(厚生省公衆衛生局)
31	特別講演	1. 肺結核と肺癌との関連 2. 肺結核の病態生理 3. 小児結核症, 特に結核性髄膜炎 の化学療法について		河合直次・香月秀雄(千葉大) 石田二郎(慶大) 佐川一郎(京大結研)
	シンポジウム	切除肺結核病巣の細菌病理学的検索 と臨床との関連		岡 捨己, 鈴木千賀志, 黒羽 武 (東北大抗研)
	特別発表	2年間の観察による肺結核の動態と 患者の社会的背景について		隈部英雄(厚生省実調協)
32	特別講演	化学療法の作用機序		五味二郎(慶大)
	シンポジウム	1. 結核菌の抵抗性について 2. 結核症の発病について	堀 三津夫 隈 部 英 雄	北本 治(東大伝研), 小酒井 望 (国病東一), 牛場大蔵(慶大), 田 中伸一(名大), 勝沼信彦(名大), 庄司 宏(阪大微研) 千葉保之(東鉄保健管理所), 内藤 益一(京大結研), 家森武夫(神戸 医大), 北 鍊平(予防会結研)
33	特別講演	1. 結核における生体の防衛機序と くに体液性因子について 2. 結核菌の薬剤耐とくにINH 耐性 について		辻 周介(京大結研) 堀三津夫(阪大微研)
	シンポジウム	1. 結核菌の微細構造 2. INH 大量療法 3. 結核性空洞	山 村 雄 一 貝 田 勝 美 岩 崎 龍 郎	武谷健二(九大), 篠原近知(東北 大抗研), 楠瀬正道(大阪市大) 河盛勇造(熊大), 藤田真之助(東 京逓信病), 田中健蔵(九大結研) 中村 滋(国療刀根山病), 影山圭 三(慶大), 小川政敏(国療東京), 山本和男(府立羽曳野病), 長沢潤 (東大), 寺松 孝(京大結研)
34	シンポジウム	カナマイシンについて	堂野前 維摩郷	梅沢浜夫(国立予研), 柳沢謙(国 立予研), 岩崎龍郎(予防会結研), 宝来善次(奈良医大), 五味二郎 (慶大), 赤倉一郎(慶大), 市川篤 二(東大)
	特別発表	昭和33年結核実態調査		尾村偉久(厚生省公衆衛生局)
35	特別講演	1. 実験動物における近交系動物の 意義と応用 2. 珪肺結核の外科的療法 3. 日本における珪肺および珪肺結 核の実態		染谷四郎(公衛院) 井上権治(九大結研) 加藤光徳(労働省労働衛生課)

総会 回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等 の別	題 名	座 長	演 者	
36	シンポジウム	4. Unsolved Problems in Phthisiology and Future of Human Tbc.		Arnold R. Rich (Johns Hopkins Univ.)	
		5. The Great Historical Challenges in Medicine.		Félix Martí-Ibáñez (New York Med. College)	
		1. 抗酸菌の変異と分類に関する問題	戸 田 忠 雄	室橋豊穂(予研), 武谷健二(九大) 占部 薫(広大), 山村雄一(九大) 杉山浩太郎(九大結研)	
			2. 重症肺結核	隈 部 英 雄	島村喜久治(国療清瀬), 赤倉一郎(慶大), 城 鉄男(国療千石荘)
			3. 結核と関連ある心肺疾患	貝 田 勝 美	赤崎兼義(東北大), 篠井金吾(東京医大), 中村 隆(東北大), 笹本 浩(慶大)
	特別報告	肺結核患者に対するカナマイシンの治療効果 (12カ月の治療成績)		厚生省結核療法研究協議会	
	特別報告	昭和34年結核実態調査報告		若松栄一 (厚生省結核予防課)	
	特別講演	1. 結核菌の変異と遺伝 一薬剤耐性に関連して		東村道雄 (国療大府荘)	
		2. 結核菌の毒性物質 一とくに Cord Factor について		山村雄一 (九大)	
		3. 結核患者の精神身体医学的療法		深津 要 (国療八事)	
		4. 結核菌磷脂質抗原による肺結核の血清学的診断		高橋義夫 (北大結研)	
		5. 結核感染の疫学的考察		岡田 博 (名大)	
	37	シンポジウム	6. 大空洞に対する空洞切開筋肉弁充填術		沢崎博次 (関東通信病)
7. 空洞と胸廓成形術との諸問題				久留幸男 (予防会保生園)	
1. 結核管理の再検討			重 松 逸 造	新津泰孝(東北大結研), 島尾忠男(予防会結研), 磯江驥一郎(予防会愛知)	
2. 薬剤耐性の臨床			岩 崎 龍 郎	小川政敏(国療東京), 永坂三夫(県立愛知病), 北本治(東大伝研) 加納保之(国療村松晴嵐荘)	
3. INH の臨床			日 比 野 進	河盛勇造(熊大), 馬場治賢(国療中野), 岡 捨己(東北大抗研), 砂原茂一(国療東京)	
特別講演			1. 非定型抗酸菌の臨床		日比野 進 (名大)
			2. 抗酸菌の生化学的分類		今野 淳 (東北大抗研)
		3. 化学療法併用下における肺結核刺激療法の再検討		寺松 孝 (京大結研)	
		4. 無菌動物の結核症		宮川正澄, 岸本英生 (名大)	
		5. Grundlagen, Methoden und Ziele der Lokalen Kavernenbehandlung.		Hans Risk (Rheinische Landes-klinik Marienheide)	
		6. 1314 TH の問題		堂野前維摩郷 (阪大)	
		7. サルコイドーシス及び結核症の病理		高松英雄 (京大)	
シンポジウム		1. 肺結核における肺機能低下に関する諸問題	長 石 忠 三	笹本浩(慶大), 中村隆(東北大), 宮本忍(日大), 塩沢正俊(予防会) 佐川弥之助(京大結研)	

総回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等の別	題名	座長	演者
38	特別講演	2. 類上皮細胞	黒羽 武	小島瑞(福島医大), 水谷昭(京大結研), 家森武夫(神戸医大), 森川和雄(北大結研)
		3. 外来治療か入院治療か	隈部 英雄	飯塚義彦(予防会渋谷診), 有賀光(国鉄東京保健管理所), 大里敏雄(予防会渋谷診), 木野智慧光(予防会結研), 菅野 巖(東北大抗研), 内田 登(国療刀根山), 長沢誠司(国療東京), 植村敏彦(国療東京)
		1. 結核菌蛋白抗原の研究 —とくにその免疫化学的解析		米田正彦(阪大微研)
	シンポジウム	2. 肺結核症の悪化要因 —ことに難治化要因		北本 治(東大伝研)
		1. 胸部疾患の診断におけるX線高圧撮影法	入江 英雄	神田耕介(福岡日赤), 遠藤昌一(予防会保生園), 村上晃一(九大) 大島義男(予防会大阪)
		2. 中小企業における結核の現状とその対策	岡崎 正義	岡田静雄(予防会大阪), 李野寿一(予防会愛知), 山本三郎(社保鳴和病), 城戸春分生(予防会福岡), 小山幸男(労結小松川大橋診)
		3. 難治肺結核症の対策	北本 治	山本和男(府立羽曳野病), 赤倉一郎(慶大), 鈴木千賀志(東北大抗研), 長沢潤(東大)
		1. 空洞の病態生理		萩原忠文(日大)
		2. INH 代謝に関する 2, 3 の問題		砂原茂一(国療東京)
		3. わが国の結核の将来とその対策		御園生圭輔(予防会保生園)
特別報告	昭和38年結核実態調査		若松栄一(厚生省公衆衛生局)	
シンポジウム	1. 既治療肺結核の化学療法	河盛 勇造	杉山浩太郎(九大結研), 新津泰孝(東北大抗研), 小林栄二(予防会結研), 福原徳光(東大伝研)	
	2. 精製ツベルクリンに関する諸問題	柳沢 謙	山村雄一(阪大), 染谷四郎(公衛院), 岡田博(名大), 室橋豊穂(予研)	
	3. 肺結核の治療と就労	千葉 保之	山本和男(府立羽曳野病), 小熊吉男(予防会結研), 梅沢勉(警視庁健康管理室), 松谷哲男(電々東京健康管理所), 福田安平(国鉄東京保健管理所)	
	4. 抗結核薬の副作用発現機序とその対策	五味 二郎	伊藤文雄(阪大), 徳臣晴比古(熊大), 上田泰(慈大), 三輪清三(千葉大), 鈴木安恒(慶大)	
	1. 肺の構造と機能		滝沢敬夫, 滝島 任, 香取 瞭(東北大)	
シンポジウム	2. 近年における肺結核の発生と進展		島尾忠男(予防会結研)	
	1. 肺外結核	堂野前 維摩郷司会 岩崎龍郎	福島清(都立清瀬小児病), 宍戸仙太郎(東北大), 水野洋太郎(阪大)	
	2. 重症難治肺結核	日比野 進司会 北本 治	大久保隆男(東北大), 岩崎三生(国療村松晴嵐荘), 小林宏行(東大伝研), 香川修事(都立府中病), 小林栄二(予防会結研)	
40	特別講演			

総回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等の別	題名	座長	演者
41		3. 二次抗結核剤の問題点	柳沢 謙 司会 岡 捨己	桜井宏(府立羽曳野病), 吉田文香(県立小原病), 福原徳光(東大伝研), 三井美澄(国療東京病), 松本光雄(県立愛知病), 山本正彦(名大), 副島林造(熊大), 津久間俊次(京大結研), 宗形喜久男(東北大抗研), 戸井田一郎(予防会結研), 足立達(北研附属病)
	パネル ディスカッション	肺結核外科の現況と将来の問題点	武田 義章 司会 篠井金吾	加納保之(国療晴嵐荘), 鈴木千賀志(東北大抗研), 長石忠三(京大結研), 塩沢正俊(予防会結研)
	特別報告	昭和39年結核実態調査		小西 宏(厚生省結核予防課)
	特別講演 I	結核症の免疫病理		森川和雄(北大結研)
42	特別講演 II	結核変遷の疫学的考察		重松逸造(金沢大)
	シンポジウム I	菌陰性空洞	岩崎 龍郎	宮城行雄(国療札幌), 木村良知(府立羽曳野病), 藤岡薫雄(県立小原療), 岩井和郎(予防会結研), 浜野三吾(国療村松晴嵐荘), 山木一郎(神奈川後保護施設), 高原 義(国鉄東京保健管理所)
	シンポジウム II	各種結核化学療法の比較検討	砂原 茂一	五味二郎(慶大), 島村喜久治(国療東京), 高橋昶正(東大)
	特別講演 I	東南アジアにおける結核問題		東義国(WHO Senior Medical Officer)
43		西太平洋地域の結核事情		田中明夫(WHO 西太平洋地域結核顧問隊)
	特別講演 II	老人の結核		永坂三夫(県立愛知病)
	シンポジウム I	結核菌の毒力	岩崎 龍郎	佐藤直行(予研), 佐藤和男(東北大抗研), 青木正和(予防会結研), 加藤允彦(国療刀根山), 村田彰(国療東京)
	シンポジウム II	偏在化する結核患者とその管理方策—結核実態の変貌に対応して	磯江 駿一郎	島尾忠男(予防会結研), 中村博見(予防会鹿兒島), 木村敦(都結核研究会), 山本三郎(国病鯖江), 山田良行, 田中四郎(社保鳴和病), 日置治男(予防会保生園), 岡崎正義(予防会大阪), 梅村典裕(愛知県衛生部)
43	シンポジウム III	結核化学療法に関する最近の問題点	河盛 勇造	高世幸弘(東北大抗研), 中川保男(国療東京), 木野智慧光(予防会結研附療), 多賀誠(名大), 広瀬久雄(名古屋第二赤十字病), 副島林造(熊大), 笹岡明一(府立羽曳野病)
	特別講演	Mycobacteria の抗酸性の生物学的意義		室橋豊徳(予研)
	シンポジウム I	結核の免疫とアレルギー	山村 雄一	米田正彦(阪大微研), 東市郎(阪大), 堀三津夫(阪大微研), 山村好弘(国療刀根山), 大島駿作(京大胸研)
	シンポジウム II	結核予防方策の再検討	島尾 忠男	近江明(富士銀健康管理センター), 青木国雄(名大), 高井鏗二(予防会結研), 岡田静雄(予防会大阪), 石井 敬(国鉄札幌)
	シンポジウム III	薬剤耐性菌感染	内藤 益一	篠田厚(九大胸研), 青柳昭雄(慶大), 大里敏雄(予防会結研), 中井準(京大胸研), 川村 達(公衛院)

総回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等の別	題名	座長	演者
44	シンポジウムIV	再治療	杉山浩太郎	萱場圭一(東北大抗研), 賀来隆二(熊大), 亀田和彦(予防会結研附療), 山本一実(府立羽曳野病), 山本達郎(予防会愛知)
	特別報告	結核病学会抗酸菌の分類委員会報告		堀三津夫(阪大微研)
	特別講演I	塵肺と肺結核		宝来善次(奈良医大)
	特別講演II	結核菌菌体成分による組織反応		安平公夫(京大胸研)
	シンポジウムI	サルコイドーシスについて	辻周介	小高稔(国鉄中央保健管理所), 三方淳男(慶大), 泉孝英(京大胸研) 立花暉夫(大阪府立病), 三上理一郎(東大), Dr. Louis E. Siltzbach(米国), 岩井和郎(予防会結研), 河合忠(日大), 本間日臣(虎の門病), 宇山昌延(京大)
45	シンポジウムII	肺結核の再発とその要因(管理された職場における観察を中心に)	梅沢勉	栗原忠雄(国鉄中央保健管理所), 本岡健一(九電病), 田寺守(東京証券健保), 塩沢活(予防会結研附療), 並河清(予防会京都)
	シンポジウムIII	結核化学療法強化の可能性とその限界	内藤益一	金井興美(予研), 山下英秋(県立富士見病), 前川暢夫(京大胸研), 中西通泰(京大胸研)
	特別報告	昭和43年結核実態調査の概要		村中俊明(厚生省公衆衛生局)
	パネルディスカッション	肺結核化学療法の適切な継続期間と治療終了の時期	岩崎龍郎	五味二郎(慶大), 河盛勇造(国病泉北), 北本治(東大医科研), 岡捨己(東北大抗研), 杉山浩太郎(九大胸研), 砂原茂一(国療東京)
	特別講演I	Derzeitige Probleme der Tuberkulosebakteriologie		Prof. Dr. Rudolf Bönicke (Forschungsinstitut Borstel, Institut für Experimentelle Biologie und Medizin)
	特別講演II	肺の機能からみた結核症の臨床と予後		滝島任(東北大)
	シンポジウムI	結核疫学の理論と実際	座長 岡田博 司会 島尾忠男	遠藤昌一(予防会保生園), 青木国雄(愛知がんセンター), 柳川洋(公衛院), 加藤孝之(金大), 鈴木誠一(東宝診), 大島義男(予防会大阪), 坂梨寿恵夫(予防会熊本)
	シンポジウムII	結核菌の微細構造, 成分及び免疫	座長 堀三津夫 司会 武谷健二	山口淳二(東北大抗研), 本宮雅吉(東北大抗研), 東市郎(阪大), 田中渥(九大胸研), 金井興美(予研) 近藤瑩子(予研)
46	シンポジウムIII	多剤耐性結核菌略出者の検討	座長 五味二郎 司会 今野淳	大泉耕太郎(東北大抗研), 福原徳光(東大医科研), 工藤祐是(予防会結研附療), 篠田厚(九大胸研), 山本正彦(名大), 立花暉夫(大阪府立病)
	シンポジウムIV	現時点における肺結核外科的療法	座長 青柳安誠 司会 加納保之	荒井他嘉司(予防会結研附療), 大田満夫(九大胸研), 鈴木千賀志, 三橋啓司(東北大), 長石忠三(京大)
	特別講演I	アジア諸国の結核—ことに結核対策とその樹立の基礎		岩崎龍郎(予防会結研)
	特別講演II	結核感染における感作と防御の機構		金井興美(予研)
	シンポジウムI	新抗結核薬を含む化学療法	五味二郎	福原徳光(東大医科研), 吉田文香(県立小原療), 笹岡明一(府立羽曳野病), 三井美澄(国療東京)

総回数	特別講演, 宿題, シンポジウム等の別	題 名	座 長	演 者
47	シンポジウムⅡ	英米等の数倍あるわが国結核死亡率の減少対策	北 本 治	松宮恒夫(東大医科研), 梅本三之助(国療宮崎), 芳賀敏彦(国療東京), 川村達(公衛院), 岡田静雄(予防会大阪)
	招 請 講 演	Mycobacteria and Mycobacterioses of the Past and Future		E. H. Runyon(ユタ大, V. A. 病)
	特 別 講 演	結核菌体成分 Wax D による生体反応		田中 渥(九大胸研)
	シンポジウムⅠ	非定型抗酸菌症	山 本 正 彦	斉藤肇(広大), 下出久雄(国療東京), 青木正和(予防会結研), 喜多舒彦(国療近畿中央), 下方薫(名大), 岩井和郎(予防会結研), 山本正彦(名市大)
	シンポジウムⅡ	これからの日本の結核対策	千 葉 保 之	山本和男(府立羽曳野病), 山口智道(予防会一健), 徳地清六(予防会結研附療), 酒井昭(川崎市衛生局), 島尾忠男(予防会結研), 前田裕(国鉄中央保健管理所), 栗原忠雄(国鉄中央保健管理所)
48	シンポジウムⅢ	結核化学療法の限界と外科療法の適応	杉 山 浩 太 郎	川添大士郎, 山本正彦(名大), 河目鍾治(東京通信病), 奥井津二(国病霞ヶ浦), 萱場圭一(東北大抗研), 高橋智広(北研)
	招 請 講 演	Cell-Mediated Hypersensitivity and Intracellular Parasitism		Byron H. Waksman(エール大)
	特 別 講 演	ミコバクテリアの性と遺伝		徳永 徹(予研)
	シンポジウムⅠ	結核免疫におけるリンパ球とマクロファージを中心とした生体反応	堀 三 津 夫	金井興美(山梨衛研), 近藤登子(予研), 村岡静子(九大), 志摩清(熊大), 山本健一(北大結研), 森川茂(京大胸研), 斉藤和久(慶大)
	シンポジウムⅡ	膿胸の治療	寺 松 孝	山本博昭(京大胸研), 安野博(予防会結研), 原信之(九大胸研), 大田満夫(国病九州がんセンター), 笹出千秋(道立釧路病), 塩沢正俊(予防会結研附療)
49	シンポジウムⅢ	最近の粟粒結核症	萩 原 忠 文	山登淳伍(都立清瀬小児病), 勝呂長(日大), 住吉昭信(九大), 青柳昭雄(慶大), 乗松克政(国療南九州), 山下英秋(県立富士見病), 山本正彦(名市大)
	特 別 講 演 Ⅰ	結核感染における Cord Factor の意義		加藤允彦(阪大微研・国療刀根山)
	特 別 講 演 Ⅱ	結核病学の未来		武谷健二(九大), 山村雄一(阪大), 岩崎龍郎(予防会結研)
	今村賞 受賞記念講演Ⅰ	ツベルクリン反応発現の機序に関する一連の研究		橋本達一郎(予研)
	今村賞 受賞記念講演Ⅱ	健康人尿中の結核菌発育抑制因子の研究		大島駿作(京大胸研)
49	シンポジウムⅠ	結核化学療法の考え方	山 本 和 男	金井興美(公衛院), 長沢誠司(国療東京), 吾妻洋(国療中野), 山口亘(府立羽曳野病), 木野智慧光(予防会結研附療)
	シンポジウムⅡ	肺結核の残したもの	島 村 喜 久 治	米田良蔵(国療東京), 長野準(国療南福岡), 岡安大仁(日大), 深津要(国療東名古屋)

総 回 数	特別講演, 宿題, シンポジウム等 の別	題 名	座 長	演 者
50	特別講演 I	化学療法の発達した現在における肺結核外科的療法		寺松 孝 (京大胸研)
	特別講演 II	ネパールの結核. 発展途上国における結核症の動態とそのコントロールの1例		岩村 昇 (United Mission to Nepal)
	今村賞 受賞記念講演	抗結核剤の作用機序に関する研究		大泉耕太郎 (東北大抗研)
	シンポジウム I	ミコバクテリアの免疫学的活性	山 村 雄 一	東市郎(阪大), 古賀敏生(九大歯) 前田秀夫(国療刀根山), 佐々木昭雄(北大免疫科研)
	シンポジウム II	結核臨床50年, その歩みと今日の問題点		
		第1部 BCG	座長 染 谷 四 郎	堀三津夫(阪大微研), 柳沢謙(予研), 高世幸弘(東北大抗研), 河盛勇三(国病泉北), 沢田哲治(BCG研), 室橋豊穂(予研), 宝来善次(兵庫医大), 高井鎮二(徳之島保健所), 青木国雄(愛知がんセンター), 島尾忠男(予防会結研), 武谷健二(九大)
		第2部 化学療法	座長 前 川 暢 夫 司会 今 野 淳	川村達(公衛院), 岩井和郎(予防会結研), 柳川洋(公衛院), 桜井宏(府立羽曳野病), 山本正彦・佐々洋(名市大), 中西通泰(京大胸研), 萱場圭一(東北大抗研)